

令和7年度大野市子ども・子育て会議（第1回会議録）

- 日時 令和7年7月22日（火）午後7時～8時50分
- 会場 有終会館 結とぴあ 302号室
- 出席者 杉原委員（大野市民生委員児童委員協議会）、森藤委員（大野市PTA連合会）、國枝委員（大野市民間こども園保護者会連合会）、山本委員（大野市立保育園保護者連合会）、玉木委員（放課後児童クラブ保護者）、森口委員（子育て交流広場ちくたつく利用者）、森田委員（大地の会）、松下委員（大野市小中学校校長会）、石田委員（大野市民間保育園）、谷口委員（公立保育園）、高村委員（大野市児童センター）、伊藤委員（大野商工会議所青年部）、杉井委員（奥越健康福祉センター）
青井アドバイザー、久保教育長
事務局 山崎局長、岡課長、橋本課長補佐、平瀬課長補佐、松山企画主査

- 欠席者 長岡委員（地域子育て支援センター利用者）、久保委員（公募）

●内容

1 教育長あいさつ

- ・さまざまな取組みを進めるに当たっては、いろんな立場の方の意見を聞き、市の取組みに関心を持ってもらい、参加・協力をいただくことが重要になる。
- ・大野市子ども・子育て会議は、学識経験者をはじめ、子どもの保護者の代表者、子ども・子育て支援に関する事業の従事者の代表者など、それぞれの立場からの貴重なご意見をいただく重要な会議である。
- ・それぞれの立場から忌憚のない意見をお願いします。
- ・市が進めるこども・若者の育成支援、子育て支援施策をチェックいただき、よりよい取組みとなるよう、ご支援とご協力をお願いします。

2 委嘱状交付

委嘱状を机上配布

任期は本日から令和9年6月30日までの2年間

3 会長及び副会長の互選について

(会長：杉原眞一委員を選出)

(副会長：森藤由紀枝委員を選出)

○杉原会長あいさつ

・子どもの保護者の代表者や、子ども・子育て支援に関する事業の従事者の代表者などそれぞれの立場から自由な発言、ご意見をお願いしたい。よろしくお願い申し上げます。

5 議事

進行 杉原会長

(1) 子ども・子育て会議の年間予定について 【資料1】

年3回を予定(7月22日、10月頃、2月頃)

(2) 令和6年度子ども・子育て関連事業の実績について 【資料2】

<意見・質問等>

杉原委員：実績報告を聞いていると、計画した以上に進捗したもの、概ね計画どおりに進捗したものになり、大野市として子育て支援を頑張っていると感じる。

杉原委員：不妊治療費助成は、執行率が40パーセントでも概ね計画どおりに進捗したということか。

⇒予算額を少し多く見込み過ぎたことで執行率が40パーセント台になっているが、実績としては、昨年度より倍増しているため概ね計画どおりに進捗したものとさせていただいた。

今年度については、予算額を精査させていただいたところである。

杉井委員：不妊治療費の助成は、保険適用外の治療のみになるのか。また県の助成を受けている方も対象になるのか。県は、保険適用であっても自己負担が6万円を超えないよう助成をしている。大野市民からの県への申請を見ていると、保険適用をした上での申請が多いのだけれども、その方たちは大野市の助成の対象になるのか。保険適用外の治療をどうやって見極めるのか。

⇒大野市では医療保険適用外の費用を助成している。領収書の保険適用外の欄に金額が記載してあるので、領収書のコピーと県の助成決定通知を提

出いただき申請を受け付けている。

杉井委員：保険適用外であっても県の対象外になる治療については、大野市の対象になるのか。県の保険適用外の助成と同じ治療のみになるのか。

⇒県の補助対象になる部分については、医療保険適用外であっても市の助成対象にはならない。

杉原委員：不妊治療助成について、令和5年度と比べると増えてきているが、例年このぐらいの件数なのか。これからもっと増えていくのか。

事務局：県の方では申請が年々増えてきているといった感じなのか。

杉井委員：減ってはいない。国の補助金であった時よりも増えている感じはある。

杉原委員：不妊治療の理解により休みが取りやすくなり、増えたということか。

杉井委員：企業のことはよく分からないが、保険適用になり窓口負担が軽くなり、以前はためらっていた方も気軽に治療しやすくなったのではないかと感じる。

⇒今後、県と件数が伸びているのかを検証していきたい。

杉原委員：放課後児童クラブと放課後こども教室があるが、差があるのではないかと聞いたが利用されている人の意見はどうか。

玉木委員：児童クラブについては、入退室や連絡のアプリが導入され、利用しやすくなり、不便さは感じていない。

⇒放課後児童クラブは、市街地にある4つの児童センターと和泉小学校内にある児童センター1つで合わせて5つあり、児童センターで放課後の居場所づくりを行っている。放課後の預かりなので就労の条件等があり誰でも利用できない。放課後こども教室は、公民館が事務局となり、放課後の預かりをしている。就労などの条件はなく、希望すれば誰でも行くことができる。登録要件があるのとないのとで違う。また、こどもに関わる大人でいうと放課後児童クラブは、センターの職員（会計年度任用職員）が対応している。村部の放課後こども教室は、地域のおじいさんやおばあさんなどの協力により安全を見守る安全管理員となっているので、子どもに関わる大人の立場が大野市の職員と、地域の方の協力となり、どこまで子どもに関わるかといったところで差が生まれているところだと思う。現在、格差をなくそうと教育委員会全体で取り組みを進めているところである。

杉原委員：学校が統合されていく中で、子ども教室もその一環で、学校の中にできる

という話を聞いたこともある。放課後児童クラブもこども教室も一緒の状態になるとありがたいと思っている親御さんがいるということで話をさせてもらった。仕組みを市街地と村部ではなく、大野市全体という形でやっていただきたい。

山本委員：村部は、夏休みの居場所づくりということでエキサイト広場で行っているが、送迎の時間帯や距離の関係で利用しづらいため、阪谷独自の地域で行っている方をお願いしたい。ただ地域での運営も難しくなっている。

⇒令和4年度までは、放課後こども教室は、平常時のみで長期休業中は行っていなかったが、令和5年度より上庄・富田・小山・阪谷の放課後こども教室の児童を対象にエキサイト広場1か所に集約して行うこととし、今年で3年目になる。阪谷地区においては、夏休みのこども教室を行う前から地域で長期休業中についても行っておられ、理想的である。

杉原委員：夏休みこども教室は去年は南部児童センターの子どもたちとの交流会もあったと聞いたが、今年はどんな感じか。交流があるとよい。

（３）令和7年度版「大野ですくすく子育て応援パッケージ」について

（４）令和7年度主要な取り組みについて

- ・結リンク～大野で永年（ええねん）界限～の設立に向けて【資料3】

「結リンク」とは若者の出会いや交流の場の創出に向けた取り組みとして、同年代の異業種のメンバー20名で構成する活動チームであり、若者交流の場づくりについての意見交換や、若者の交流・まちづくり等につながる企画のアイデア出しを行う。

会の名称は、大野の結の心や良い部分を大切に、繋がりを広げ、長く住みたい地域にしたいとの願いが込められている。

- ・病児ディケア事業の実施に向けて【資料4】

市内での病児保育の再開に向け、民間認定こども園にも実施の可能性を広げ、病後児保育の実施といった段階的实施も視野に入れて検討していく。医療機関からの診療結果の伝達や、病児保育に必要な設備の整備、看護師

や保育士の確保、病状が悪化した際の対応などの課題が考えられる。

・令和7年度教育・保育の定員の見直しについて【資料5】

人口減少に合わせた適切な定員削減が必要となってくる。未就学児の推移や入所定員の推移、各園の入所率の推移の見込み、また各園の保育士の確保の見込みなど、各法人の意向などを十分に把握し、定員の見直しについて進めていく。

<意見・質問等>

杉原委員：天空パークOSORAの利用者は何時間ぐらい遊ぶのか

⇒土日祝日については、予約制になっており、1コマ2時間となっている。

予約によっては、2コマ予約する方もいる。中には、お昼時に一度食事を取りに外に出られ、また戻ってこられる方もおられるということもお聞きしている。

杉原委員：天空パークOSORAの1コマが2時間であるのなら、駐車場を2時間無料にすることはできないのか。無料にすればもっと利用が増えるのではないか。

⇒駐車場はOSORAの専用ではなく、観光客用であり、市街地中心部の一等地の駐車場になるため、有料でご理解いただきたい。

杉原委員：OSORAを利用するにも無料駐車場がないので利用しにくいとの話も聞いている

⇒周辺の駐車場（たとえば市役所）にとめていただければ、5分ほど歩く必要はあるものの無料になる。結ステーションは利便性が良い分、他の観光客であつたり商店街に来たお客さんと同様の扱いになることをご理解いただきたい。

山本委員：夏休みこども教室の定員が40名であり、60名の希望があったということだが、20名はどうなったのか。

⇒3年目になったので、1年目からきているお子さんは今回も申込みされているが、高学年の子よりも、低学年の子を優先させていただいた。また普段こども教室を利用していないお子さんについても長期休業中のみの申込みが

あり、そこは振るい分けさせてもらった。あふれた子どもたちはどこも受け入れがないというわけではなく、児童センターの児童クラブで長期休業中のお預かりをしているのでご案内をしている。

山本委員：勝山は無料と聞いたことがあるが、その分審査が厳しいと聞いている。大野市についても家庭の状況や就労条件などあるのか。

⇒大野の児童クラブも保育の必要性について審査をしている。家に保護者がいたり、同じ校区内に祖父母がいる場合は就労の有無も調査させていただいているので勝山と同じである。大野市は年間利用料 3,200 円いただいているが、アプリを導入し、何時に子どもが児童センターに来たかが分かるなど、また翌月の利用についてもアプリで予約できるなどの利便性を上げていることから、経費がかかっており負担をお願いをしているところである。

⇒60人を40人に絞らなくてはいけないのは、安全管理員が一人で見える人数には限界があり、たくさん集めすぎると目が行き届かなくなり、けがなどのリスクが高くなるためである。

杉原委員：学習時間はだれか教える人がいるのか

⇒学習指導はやっていない。

青井アドバイザー

自己評価が数字のみの評価なのでもったいない。市民に伝わっているかどうか確認するということでは、量的な評価だけでなく実質的な評価も必要である。

評価の仕方も大野バージョンで考えていかれるとよい。

(閉会のあいさつ)

森藤副委員長

委員のみんなで情報を共有することができ良かった。また会長のお声がけでみなさんのご意見を聞け、良いスタートを切れたのではないかと思う。今後2回の会議が予定されているが、引き続きみなさんのご協力ご支援をお願いしたい。

本日は大変お疲れ様でした。